

令和4年度 秋の公開

## 道徳科学習指導案

指導者 北信教育事務所 指導主事 新海 千博 先生  
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 准教授 高柳 充利 先生  
日 時 令和4年10月13日(木)  
授業学級 1年D組(41名)  
授業会場 1年A組教室  
題材名 「人間のもつ弱さと向き合う」  
内容項目D(22) よりよく生きる喜び  
授業者 丸山 進一

### I 本校全体の研究の概要

- 1 令和4年度 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」・・・・・・・・ 道徳1
- 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え・・・・ 道徳1
- 3 令和4年度 研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 道徳2

### II 道徳科の研究

- 1 道徳科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 道徳3
- 2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め・・・・ 道徳3
- 3 研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 道徳3

### III 題材の指導計画

- 1 題材名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 道徳4
- 2 題材の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 道徳4
- 3 道徳科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・ 道徳4
- 4 題材に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 道徳4
- 5 題材展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 道徳6

信州大学教育学部附属長野中学校 道徳科

研究者 丸山 進一 柳澤 征之 富田 武  
佐々木清花 青木 孝文 秋山 拓也



## I 本校全体の研究の概要

### 1 令和4年度「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」

#### 目指す生徒の姿

**学びを拓いていく生徒**

#### 全校研究テーマ

**学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）**

### 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え

学校教育目標「ともに学び 一人となる」の下、日々の教育活動に努める私たちは、令和2年度末、それまでの教育活動において「育っている生徒の姿」と「さらに育てたい生徒の姿」を洗い出し、令和3年度において、本校の「目指す生徒の姿」について検討した。以下はそこで出された意見の一部である。

- ・学ぶことがおもしろい、楽しい、もっと学びたいと願う生徒
- ・解決したことを基に、新たな問いをもつ生徒
- ・学習や人生において、各教科等の「見方・考え方」を、自在に働かせていく生徒
- ・自分の学びを客観的に捉えたり、友の考えを批判的に捉えたりするなど、学びを自覚することができる生徒

なお、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の第1章総説1の(2)③では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進において、次のような生徒の姿が求められている。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする

私たちは、令和3年度において、「目指す生徒の姿」を検討した際に出された上記の姿と、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編において求められている生徒の姿が重なると考えた。そこで私たちは、目指す生徒の姿の具体を「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と捉え、本校が目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」と据えた。

次に、私たちは、「学びを拓いていく生徒」を具現するために令和2年度までの研究を基にして、全校研究テーマについて検討した。そこでは、各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことを「各教科等の本質」、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉えることを職員間で共有した。そして、この二つの本質は、「学びを拓いていく生徒」の具体とした「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」を迫るものであること、「各教科等の本質」を目指す中で「学びの本質」が生まれることの2点を確認した。そこで、私たちは、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、その具現を図ることとした。

### 3 令和4年度 研究の全体構想

#### (1) 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

#### (2) 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）

#### (3) 研究の重点

<p><b>重点1</b> 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする</p> <p>単元や題材の学習問題の解決（達成）を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける（単元や題材）。思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける（本時）。</p>
<p><b>重点2</b> 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする</p> <p>①「分かったことや分からなかったこと」「疑問に思うこと」「さらに生かせそうなこと」など、振り返りの視点を基に、単元や題材を振り返る場を位置付ける。</p> <p>②単元や題材の初めの姿と終末の姿を比較し、分かったことやできるようになったことと、その理由（学習過程）を振り返る場を位置付ける。</p> <p>③単元や題材を通して、学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだり、課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返ったりする場を位置付ける。</p>

#### (4) 各教科等で育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動や健康についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野)社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野)生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳性を養うための学習の在り方
総合的な学習の時間	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高める学習の在り方

## Ⅱ 道徳科の研究

### 1 道徳科の研究テーマ

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳性を養うための学習の在り方

### 2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め

「よりよい集団を目指して」(令和4年5月・1年)では、集団生活を充実させようとする気持ちを高める学習を構想した。そこでは、主題「よりよい集団になるために大切なこと」を設定し、教材「みんなで成功させよう」【内容項目C(15)】で、リーダーやフォロワーの立場から、集団で生活する上で大切なことを考えた後、教材「魚の涙」【内容項目C(11)】で、加害者、被害者、傍観者の立場から、いじめのない世の中にするために大切なことを考える展開を位置付けた。

第1時、S生はリーダーの立場から発言したA生の意見を踏まえ、フォロワーの立場から「A生が、宿泊学習の時にリーダーとしてみんなのことを考えていることに驚いた。だから、必要な時は自分も意見を出してリーダーを支えていかなければいけない。」と全体追求の中で述べ、リーダーを助けるフォロワーの重要性に気付いた。第2時、S生は、傍観者の立場から「簡単なことではないが、必要な時には意見を出し合い、学級全体の雰囲気、いじめを防いだり、隣にいて支えたりして、いじめを断ち切りたい。」と述べ、集団の一員としていじめを防ごうとする意欲を高めた。そして、S生は、よりよい集団となるためには、一人一人が1年D組の一員である自覚をもち、自分ができることを行動に移していくことが大切だと考えた。このようなS生の姿を「道徳科における見方・考え方」を働かせ、集団生活を充実させようとする気持ちを高めた姿であり、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳性を養った姿と捉える。

題材の終末、主題「よりよい集団となるために大切なことは何か」について考えたことで、自分が成長したと思うことを振り返る活動を位置付けた。S生は、「人前に立って何かをすることは得意ではないけれど、以前よりも、クラスの中で自分ができることはないかを考えることが多くなってきた。しかし、まだ行動できていないので、行動できるようにしたい。」と記述した。このようなS生の姿は、学級の一員としての自覚をもち、集団生活の充実に努めようとした姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。

このような学習を積み重ねていくことで、道徳科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

### 3 研究内容

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説の特別の教科道徳編第3章道徳科の内容では、「内容項目を熟知した上で、各学校の実態、特に生徒の実態に即して生徒の人的成長をどのように図り、どのように道徳性を養うかという観点から、幾つかの内容を関連付けて指導することが考えられる」ことや「適切なねらいを設定して主題を構成し、焦点が不明確にならないようにする必要がある。また、道徳科の指導に当たっては、内容項目間の関連を十分に考慮したり、指導の順序を工夫したりして、生徒の実態に応じた適切な指導を行うことが大切」であることが示されている。本校道徳科では、生徒の実態に応じた指導を行うために、他教科・領域の学習、学校行事等と関連させながら年間計画を位置付け、主題を設けている。特に、本校の重点内容項目に関しては、1単位の道徳の授業だけではなく、主題に関連する複数の内容項目からなる題材展開を構想し、それぞれの道徳的価値の理解を深めながら主題を追求していくことで、一人一人が自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳性を養うことにつながるのではないかと考えた。

### Ⅲ 題材の指導計画

#### 1 題材名・学年 「人間のもつ弱さと向き合う」・1年

#### 2 題材の目標

人間には弱い心やそれを克服する強い心があることを理解し、自分のもつ弱さを乗り越えていこうとする気持ちを高める。

#### 3 道徳科として、全校研究テーマに迫るための仮説

##### (1) 研究の重点1に関わる仮説

- ・主題「人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと」を設定し、内容項目D (22) と関わる道徳的価値を扱った教材において、人間のもつ弱さと、それを克服する強さを併せもった主人公の心情を考える展開を位置付ける。このようにすることで、「道徳科における見方・考え方」を働かせ、人間には弱い心やそれを克服する強い心があることを理解し、自分のもつ弱さを乗り越えていこうとする気持ちを高める。(題材)
- ・資料「銀色のシャープペンシル」において、「僕」の思いや行動に共感する箇所と、その理由を考えた後、どのような思いが「僕」を卓也の家へと向かわせたのかを考える活動を位置付ける。このようにすることで、自分の弱さと向き合い、それを乗り越えていこうとする気持ちを高める。(本時)

##### (2) 研究の重点2に関わる仮説

- ・題材を通して、主題「人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと」に対する考えをまとめ、主題に対する毎時間の振り返りを比較し、その変容から考えたことや感じたことを振り返る活動を位置付ける。このようにすることで、自分の弱さと向き合っていくことが今後のよりよい生き方につながっていくことを認識することができる。

#### 4 題材に寄せた教材化

##### (1) 主題「人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと」を設定し、内容項目D (22) と関わる道徳的価値を扱った教材において、人間のもつ弱さと、それを克服する強さを併せもった主人公の心情を考える展開を位置付ける

本学級の生徒は、前向きに学校生活を送っている一方、自らの弱さを隠したりごまかしたりする姿がある。その姿から、教師は、生徒に人間のもつ弱さを認めることや、それを乗り越える大切さを自覚してほしいと願い、本校の重点内容項目の一つである、D (22)「よりよく生きる喜び」に迫ろうと考えた。本校道徳科では、内容項目D (22)「よりよく生きる喜び」には、友情、公德心、自主・自律など、様々な内容項目が深く関連していると考えた。そこで、本題材では表1のように題材展開を構想した。

表1 題材展開

第1時	主題「人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと」を設定し本題材の見通しをもつ。		
	教材名	内容項目	内容項目D (22) との関わり
第2時	雨の日の昇降口	C (10) 遵法精神、公德心	他人の傘を無断で使用するかどうか悩みながらも、きまりを守った主人公の姿から、弱さを気高さに変えて生きていくよさを理解する。
第3時	裏庭での出来事	A (1) 自主、自律、自由と責任	自分の行動に対して無責任になってしまう弱さを理解し、自分を律して責任ある行動をとろうとする心情を養う。
第4時	銀色のシャープペンシル	D (22) よりよく生きる喜び	自分の弱さと向き合うことで、それを乗り越えていこうとする気持ちを高める。
第5時	主題に対する自分の考えのまとめと振り返り		

第1時、教師は、前期(4月～9月)の生活を振り返る場を設け、生徒は、学校生活において成長したことと、後期(10月～3月)にさらに成長していきたいことを述べるだろう。教師は、「実行しようとしても、行動に移すことができない経験はないか」、

そして、「それをどのように乗り越えてきたのか」を尋ねる。生徒は、これまでの生活を振り返り、自分の経験を語るだろう。教師は、誰もがそのような人間の心の弱さとそれを乗り越えていく強さがあることを確認し、主題「人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと」を設定する。このように、題材の冒頭に、生徒の実態に応じて主題を設定することで、生徒は人間のもつ心の弱さとそれを乗り越えていく強さについて、自分事として捉えていくことができると考えた。

第2時、「雨の日の昇降口」【内容項目C (10)】において、きまりを大切にしている自分の弱い心に打ち克った主人公の心情に迫ることで、「きまりを守ろうという思いが、弱さを乗り越えることにつながる。」などと考えるだろう。第3時、「裏庭での出来事」【内容項目A (1)】において、責任のある行動を大切にしている主人公の心情に迫ることで、「自律の心をもつことで、弱さを乗り越えることができる。」などと考えるだろう。

第4時(本時)、「銀色のシャープペンシル」【内容項目D (22)】を扱い、教師は、主人公の「僕」に共感する箇所を尋ねる。生徒は、「僕」の思いや行動から、複数の箇所を挙げるだろう(表2)。教師は、共感した理由を尋ねる。生徒は、「僕」の思いや行動に共感した理由として、自分にも「僕」のような心の弱さがあることを挙げるだろう。そして、教師は、「僕」が卓也の家に向かって歩き出した場面を取り上げ、中心発問「どのような思いが『僕』を卓也の家へと向かわせたのだろうか。」を据える。生徒が、「僕」の弱さに共感することで、「僕」を自分と重ねて考え、歩き出そうとした「僕」を突き動かした思いを、より自分事として捉えることができ、その後の自分の弱さと向き合うことにつながると思った。生徒は、本題材での学習を想起し、きまりを守ることを視点にしたり、自主・自律・責任を視点にしたりしながら、弱さを克服していく「僕」の思いを語るだろう。さらには、「以前にも合唱で人のせいにしてしまったことがある。このままでは、また同じことを繰り返してしまう。ここから逃げてはいけない。」などといった、「僕」が自分の弱さと向き合い、それに打ち克った思いを語る生徒もいるだろう。本時の終末、教師は本時の学習を振り返る場を設ける。生徒は、「僕」の思いを自分と重ねて捉え、自分の弱さと向き合うことで、それを乗り越えていこうとする気持ちを高めていくだろう。

表2 生徒が共感するであろう「僕」の思いや行動

- ・自分で買ったと嘘をついたこと
- ・本当のことを話そうと思ったけれど、話せなかったこと
- ・自分が本当のことを言えなかったことを人のせいにしていること
- ・黙って卓也のロッカーにしまったこと
- ・返したんだから文句はないだろうと自分に都合のよい解釈をしたこと
- ・卓也から電話があった時に、素直に言えなかったこと
- ・卓也が勘違いだと言っているのだから、このまま黙っていようとしたこと
- ・合唱コンクールの時も、人のせいにしていたこと

以上のような展開を位置付けることで、本題材のねらいに迫ろうと考えた。

(2) 題材を通して、主題「人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと」に対する考えをまとめ、主題に対する毎時間の振り返りを比較し、その変容から考えたことや感じたことを振り返る活動を位置付ける

題材の終末、教師は、主題に対する自分の考えをまとめるように促す。生徒は、「自分の弱さを克服していくためには、まずは自分の弱さと向き合い、その弱さを認めていくことが大切だと思う。自分の弱さを認め、それを克服するために行動することは簡単ではないが、そう考えられることが人間のよさであると思う。」などと考えをまとめるだろう。そして、教師は、主題に対する毎時間の振り返りを比較し、その変容から考えたことや感じたことを振り返る場を設ける。生徒は、「はじめは、自分の意志を強くもつことが大切だと思っていた。しかし、それだけではなく、きまりを守ることや責任感をもつことも必要で、その根底には、自分の弱さから逃げないことがあるということが、三つの教材から分かってきた。」などと振り返り、自分の弱さと向き合っていくことがこれからのよりよい生き方につながっていくことを認識することができるだろう。

5 題材展開 人間には弱い心やそれを克服する強い心があることを理解し、自分がもつ弱さを乗り越えていこうとする気持ちを高める学習

全5時間扱い 本時は第4時

段階	◆学習		時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応	
導入	<p>◆主題を設定し、題材の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前期の生活を振り返る場を設け、成長したことで、さらに成長していきたいことを尋ねる。</li> <li>アのような反応から、実行しようとしても行動に移すことができなかった経験やそれをどのように乗り越えてきたのかを尋ねる。</li> <li>誰もが心の弱さとそれを乗り越えていく強さがあることを確認し、<b>主題「人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと」</b>を設定し主題に対する考えを書くように促す。</li> </ul>	<p>ア 前期は、時間を守ることや、テストの範囲の内容の学習をやりきることができた。後期は、示されたことだけではなく、もっと自主的に学習に取り組んでいく機会を多くしていきたい。</p> <p>イ 前期中間テストでは、毎日継続して学習すると決めたが、寝てしまったり、動画を見てしまったりして継続することができなかった。今回のテストはまずいと思い、やり抜く意志を強くもつことで、前回よりは継続して学習を続けることができたと思う。</p> <p>ウ 人間には弱さも強さもあり、できる時とできない時がある。心の弱さをどうしたら乗り越えることができるのか、主題について考えていきたい。</p> <p>エ 私は強い意志をもつことが大切だと思う。周りに流されそうな時でも、自分が正しいと思う行動をすることが大切だと思う。</p>	1
展開	<p>◆内容項目C (10)、A (1)、D (22)のねらいとする道徳的価値に迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材「雨の日の昇降口」を通して、公德心をもって生きていこうとするよさを追求する場を設ける。</li> <li>中心発問「どのような思いが僕を雨の中へと走り出させたのだろうか。」を据える。</li> <li>主題に対する振り返りを記述する場を設ける。</li> <li>教材「裏庭での出来事」を通して、人間のもつ弱さを理解しながら、自分を律して行動していこうとする心情を追求する場を設ける。</li> <li>中心発問「どのような思いをもって、健は職員室へ向かったのだろうか。」を据える。</li> <li>主題に対する振り返りを記述する場を設ける。</li> </ul>	<p>オ 周りに流されることなく、物事の善悪を自分で判断する心が大切なのではないか。</p> <p>カ 僕は「どうせ誰かが僕の傘を盗ったと決めつけて、人の傘を勝手に使おうとしたし、それによって、他に困る人がいるのが分かっていたにも関わらず、自分の都合のいいように言ってしまった自分が恥ずかしい。」という思いだったのではないか。</p> <p>キ 主人公の「僕」のように、人に迷惑を掛けずに、きまりを守ろうという思いが、弱さを乗り越えることにつながる。他者のことを考えてきまりを守ろうとしていく気持ちをもつことが、自分の弱さを克服していくことにつながるのではないか。</p> <p>ク 健は、先生が来た時に、バレないと思ってガラスを割ってしまったことを言わなかったのだと思う。また、友が言うように、その場にいた大輔も何も言わなかったため、言い出せずにいたのではないか。</p> <p>ケ 健は、ガラスを割ってしまったということに対して、自分に正直になって、誠実な気持ちをもって職員室に向かったのだと思う。友とのやり取りで迷う気持ちもあったけれど、自分が正しいと思う行動をした方がよいことに気付いたのではないか。</p> <p>コ これまでは、弱さを克服するためには強い意志や、きまりを守ろうとする思いが大切だと考えていたけれど、健のように、自分で正しいと思うことを判断したり、責任感をもって行動したりすることも大切だと思う。弱さを克服するためには、様々な要素があるが、その中でも最も大切なこととは何だろうか。</p>	2 〜 4 (本時は第4時)
	<p><b>本時のねらい：</b>自分の弱さと向き合うことで、それを乗り越えていこうとする気持ちを高める。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2〜3時を想起させ、人には心の弱さと強さがあることを共有する。</li> <li>「銀色のシャープペンシル」を音読し、「僕」の思いや行動に共感する箇所に線を引くように促す。</li> <li>共感した理由を尋ねる。</li> </ul>	<p>サ 傘をもっていかなかった「僕」も、職員室に向かった健も、自分の弱さを克服して、行動に移そうとする強い心をもっていた。</p> <p>シ 「自分で買ったと嘘をついたこと」「本当のことを話そうと思ったけれど、話せなかったこと」など、「僕」の思いに共感する箇所がいくつもあった。</p> <p>ス 「僕」と同じように、私もごまかしたくなったり、隠したくなったりすることがある。「僕」の行動には弱さをたくさん感じるが、それは特別なことではない。正しくないとは分かっているが、自分の弱さに負けてしまうことは誰にだってある。</p>	5分



展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「僕」の弱さから考えたことや感じたことを尋ねる。</li> <li>・セのような発言から、なかなか一歩を踏み出せなかった「僕」が卓也の家に向かって歩き出した場面を取り上げ、<b>中心発問「どのような思いが僕を卓也の家へと向かわせたのだろうか。」</b>を据え、自分の考えをまとめる場を設ける。</li> <li>・グループや全体で互いの考えを伝え合うように促す。必要に応じて道徳的価値に迫ることができるように問い返したり、関わった考えがないか尋ねたりする。</li> <li>・主題に対する振り返りを記述する場を設ける。</li> </ul>	<p>セ 「僕」は何度も機会があったにも関わらず、謝ることができなかったことはよくないが、卓也に謝ることができなかった「僕」の気持ちが分かる部分もある。Tさんも「僕」と同じように、言い出せなかったことがあり、その時には自分で言い出せなかったことがあるから、とても共感できると言っていた。</p> <p>ソ 雨の日の昇降口の主人公の「僕」と同じように、「人のものを盗ってごまかしてしまったのは自分だから、しっかりと謝らなければならない」という思いだったのではないかと。「僕」が、卓也のことについて、これほど悩んでいるということは、「僕」はまじめにこの問題に向き合い、何とかしようと考えているため、当たり前を守るべきことができている自分が悔しくて、何とかしたいという思いがあるのではないかと。他の人はどのように考えているのだろうか。</p> <p>タ Tさんは、きまりというよりは、責任感の視点から「自分が言い出せなかったにも関わらず、卓也に謝らせてしまった。悪いのは自分なのだから、きちんと謝らないといけな。」という正直に生きたいという思いについて考えていた。</p> <p>チ Yさんは『「僕」は、シャープペンシルのことだけではなく、以前にも合唱で人のせいにしてしまったことがある。このままでは、また同じことを繰り返してしまう。ここから逃げてはいけな。」と、自分の弱さと向き合おうとする気持ちを語っていた。様々な視点はあろうと思うが、まずは自分の弱さを自覚することができたからこそ、これまでずっと踏み出せずにいた「僕」が卓也の家に向かおうとすることができたのかもしれない。</p> <p>ソ 人間のもつ弱さを克服するためには、様々な要素があるが、今回の「僕」のように、まずは自分自身の弱さと向き合うことが必要かもしれないと思った。ただ、それが難しいことでもある。「僕」も始めは悪気があったわけではないのに、ちょっとしたことがきっかけで、友だちを失ってしまうかもしれない。私も自分の弱さと向き合って、それを乗り越えていけるようにしていきたい。</p>	<p>10分</p> <p>25分</p> <p>10分</p>
	終末	<p>◆自分の弱さと向き合っていくことがこれからのよりよい生き方につながることを認識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題「<b>人間のもつ弱さを乗り越えるために大切なこと</b>」に対する自分の考えをまとめる場を設ける。</li> <li>・主題に対する毎時間の振り返りを比較し、その変容から考えたことや感じたことを振り返るように促す。</li> </ul>	<p>テ 自分の弱さを克服していくためには、まずは自分の弱さと向き合い、その弱さを認めていくことが大切だと思う。自分の弱さを認めることも、それを克服するために行動することも簡単なことではないが、そのように受け止めて考えられることが人間だと思う。これからは様々な場面でうまくいかないことがあって、自分の弱さに負けてしまいそうになることがあるかもしれないが、その弱さを受け入れて、次の行動につなげていくことが大切なことなのではないだろうか。</p> <p>ト はじめは、自分の意志を強くもつことが大切だと思っていた。しかし、それだけではなく、きまりを守ることや責任感をもつことも必要で、その根底にあるのが、自分の弱さから逃げないことだと思う。それは、三つの教材で人間のもつ強さや弱さについて考えてきたことや、自分と違う意見をもつ友の考えを聞くことで分かってきたことだと思った。</p> <p>ナ 三つの教材の主人公は、弱さもあるが、強さももっている。それは、私も同じだ。弱い心と強い心が綱引きをして、自分のもつ強さが少しだけ勝ったことはこれまでもたくさんある。後期の生活では、自分の心の弱さを感じたときは、まず向き合おうとする気持ちを持ち、自分のもつ強さをたくさん見つけていきたい。このことを心がけて、よりよい生き方を考えていきたい。</p>